

会 議 録 要 旨

会議名		令和3年度 第1回藤沢市下水道運営審議会	
開催日時		2021年（令和3年）4月13日（火）午前9時28分～午前11時37分	
開催場所		本庁舎5-1, 5-2会議室	傍聴者数 0人
出席者	会 長	杉 渕 武	
	委 員	井上 美鈴 大内 禎 齋藤 力良 重田 和恵 野牧 喜久江 深澤 潤子 宮治 八千代 三輪 晋 矢出 乃大	
	事務局	鈴木下水道部長 [下水道総務課] 近藤参事・指旗主幹・濱野主幹・細谷主幹・小川補佐・工藤補佐 利根補佐・外山専任補佐・矢口上級主査・三澤上級主査 吉原専任上級主査・松本主査・松田主任・田中担当・茂垣担当 [下水道管路課] 中村課長・藤原補佐・鈴木補佐・小松補佐 [下水道施設課] 真間参事・竹内辻堂浄化センター長・一ノ瀬大清水浄化センター長 佐藤補佐・田中補佐・斉藤補佐・佐々木主査	
議題及び公開・非公開の別		1 今後の下水道事業における整備と運営のあり方について（公開）	
非公開の理由			
審議等の概要		<p>《議題》</p> <p>1 今後の下水道事業における整備と運営のあり方について 資料1～4に基づき説明。</p> <p>【質疑】</p> <p>(1) P54「汚泥の全量焼却から資源化・有効化への転換」について、環境エネルギーへ大きく転換しようと、世界的に水素への転換が動き始め、かなり技術が進んできている。下水処理場は、非常に多く電気を使うことから、災害時に自分でエネルギーを持つことを考えなくてはいけないと思う。どのように考えているか。</p> <p>《回答》</p> <p>資源の循環としましては、現状、焼却灰を建設骨材等に再資源化しております。他の自治体ではエネルギーに転換するような固形燃料を作ったり、再資源化のプラントを持っているところもありますが、現状では、県が指導をして近隣の自治体を含め広域化、共同化を検討する会議があり、その中で将来の人口減少や流入量の減少など将来的に有効な汚泥処理の手法を検討しております。今後も循環型社会の形成に向け、水素ガスへの転換なども含め多様な情報を捉え施策に生かしていきたいと考えております。また、災害時の電源喪失に備え辻堂浄化センターでは非常用の自家発電機を2基設置し48時間運転が続けられる体制となっております。</p> <p>(2) 9つの課題のうち、4～7（水環境の保全、地球温暖化の防止、循環型社会の形成、汚泥処理施設の普及）は今できていることを継続すればよいかと受け止めます。1～3（老朽化対策、浸水被害対応、大規模地震の備え）については、今後の計画の規模、年度で予算がわかり必要な金額が出てくる、そして8（経営基盤の強化）につながり下水道料金がこうなるということ、非常に市民に分かりやすいと思います。</p> <p>《回答》</p> <p>地震対策、老朽化対策、その他の事業の洗い出しを行い、それらに対する費用が今後どのくらいかかっていくのかは中期経営計画を作る中で取り組んでいく予定です。具体的な費用も含め、長期的な財政の見通しなど整理してまいります。</p>	

(3) 資料は、知りたいことが全部載っておりよい資料だと思います。さらにわかりやすく、広報など皆さんの手に届くように配ったらよいと思います。うまく現状の紹介をしていただければと思います。

《回答》

PRの観点での見える化は非常に大事なものだと思っています。下水道は、今の若い人にはあって当たり前になっています。下水道を使っただき、使用料を払っていただくという形にも視点を向けたPRは大事だと考えております。また、地震や大雨による浸水による下水道がどうなるのか、下水道の大きな課題も見える化し伝える必要があると考えております。例えば動画や漫画など受け入れやすい資料とすることを今後考えております。

(4) 市民満足度を見ると、下水道について関心がないと満足度も数値が出てこないと思います。市民の関心を上げたいというステップになると思っています。

P16の図はわかりやすく、青で囲んだこれからの下水道の役割を、その下に「持続可能な事業運営」があることにより、上の3つが達成できるという図式だと理解しました。下水道事業の経営基盤の安定化があり、9つの項目が達成できると考えます。一番大事なものは、経営基盤を安定、強化していくという根本的なところをビジョンでも少し明確にしたほうがよいのでは。

《回答》

皆様から頂いたお金でどうやっていくかが経営で大事となります。この視点で施策を作ってまいります。

(5) 基本理念について、小学生・中学生が読んでもわかるように少し短くしてはどうか。キャッチフレーズ的なことが頭に入れば市民向けの理念としてよいのでは。わからない部分は補足が入ればよいと思います。

《回答》

若干硬く、長くはなっておりますが、すべてのことを表現したいと捉えたところでございます。一般の方々向けに表現するときは、理解していただけるような表現でPRをさせていただき、ふじさわの下水道のイメージなどポンチ絵や言葉などで表現してまいりたいと考えております。

その他

(1) 藤沢市下水道ストックマネジメント実施方針について

【質疑】

・50年後の下水道施設は人口推移との関係でどのくらい利用されているかという前提はあるのか。

《回答》

現状の施設数としておりますので、将来の見通しをまた検討してまいります。

・シナリオは改築の予算なのか、下水道使用料の予算なのか。また、予算は調達できているのか。

《回答》

改築の予算です。老朽化対策でのリスク評価5をゼロにするためのシナリオでの試算となっております。

(2) 令和3年度下水道PR事業について

【質疑】

・冊子「ふじさわの下水道」はどのように使用していくのか。

《回答》

2,000部作成し、下水道フェアや出張講座、作品コンクールの際の配布やHPへの掲載など、広く多くの方に見ただけのように考えております。

(3) 令和3年度藤沢市下水道運営審議会日程について